

百合が原公園（札幌市北区）

道場 優

約24ヘクタールの広大な敷地に、世界中から集められた百合が咲き誇り、札幌市の姉妹都市の庭園やロックガーデン、リリートレイン、温室などの施設がある百合が原公園。約80種の百合が咲く6月上旬～9月下旬には、たくさんの花を愛でる人々に賑わうこの公園も、探鳥の隠れた場所とは、あまり知られていない。事実、双眼鏡を首に鳥見をしているのは、私くらいなものだ。



1983年7月に開園する前は、ここは牛を飼い、乳を搾る農家の農場だった。広い畑が拡がり、牛の鳴き声があたりに響いて、のんびりした気分させられるところだった。近くのアパートに住んでいた私は、家内と朝、牛乳を買いに行ったものだ。現在も緑あって公園の近くに居をかまえているが、サイロが残っているあたりが、農家の住居跡だ。

樹は天然のものは殆どなく、公園にすべく植え込まれたものだが、月日が経ってやっと林らしくなって来て、鳥たちも1年中住みつき、繁殖する鳥も増えてきた。また、夏鳥や冬鳥がこの公園を利用をし、旅の途中で一休みする珍しい鳥たちにも出会える楽しみがある。

特別に鳥がみられるポイントはないが、公園の中を花を見ながら一周すると、ずいぶんたくさんの鳥と出会えたり、鳥の声を聴くことができる。池にはマガモやコガモの夫婦も見られる。強いて言えば「日本庭園」や「ロックガーデン」の小さな木々に珍しい鳥が見られて、私は楽しい場所になっている。

平成4年から観ている鳥を紹介すると、留鳥は、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、エナガ(シマエナガ)、アカゲラ、コゲラ、キクイタダキ、キバシリ、ヒヨドリ、トビ、ハクセキレイ、キジ(コウライキジ)。加えて繁殖している鳥は、アカハラ、ムクドリ、アオジ、モズ、カワラヒワ、ヒバリ、コムクドリ、シメ、アリスイ、キジバト、以前にはチゴハヤブサが繁殖した。

他に、カッコウ、キビタキ、ルリビタキ、ノゴマ、オオルリ、コルリ、ウソ(ウソ、アカウソ)、クロツグミ、イスカ、ヤブサメ、コサメビタキ、ウグイス、センダイムシクイ、エゾセンニュウ、アトリ、ベニヒワ、ベニマシコ、メジロ、ノビタキ、イカル、カケス、ツグミ、アオサギ、ハイタカ、イソシギ、マガモ、コガモ、以上55種。

私の百合が原公園の探鳥も夏はお休みで、他のところへ出かけていることが多いので、まだまだこっそりと公園を利用している鳥がいるかと思われる。人間と共存する鳥たちの“声”にも耳をすませて、鳥たちの住みやすい自然とはどういうところかを考えるのも、いい機会かと思われる。